国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況（平成21年度 年次報告）について

国土交通省国土技術政策総合研究所総合技術政策研究センター
建設マネジメント技術研究室　主任研究官　塚原（つかはら）　隆夫（たかお）

1 はじめに

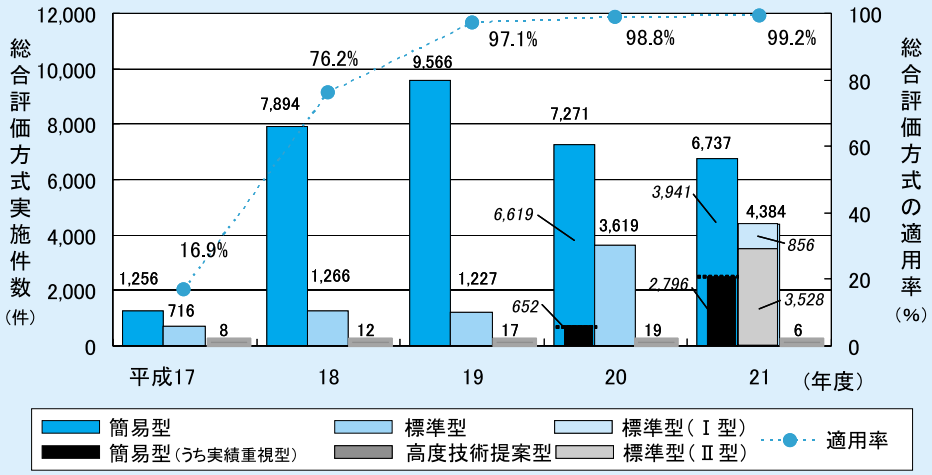
国土交通省では，国土交通省直轄事業における公共事業の品質のさらなる確保・向上を図るため，平成21年度に設置した「総合評価方式の活用・改善等による品質確保に関する懇談会」（座長：小澤一雅東京大学大学院工学研究科教授）において，総合評価方式の活用・改善や多様な入札・契約制度の導入等，入札・契約に関する諸課題への対応方針について検討を行っており，これら検討に資するため国土交通省における総合評価方式の現況をとりまとめた「国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況（年次報告）」を作成しております。

今般平成21年度の年次報告を作成・公表しましたので，本稿ではその概要を報告いたします。

2 総合評価方式の普及・拡大の状況

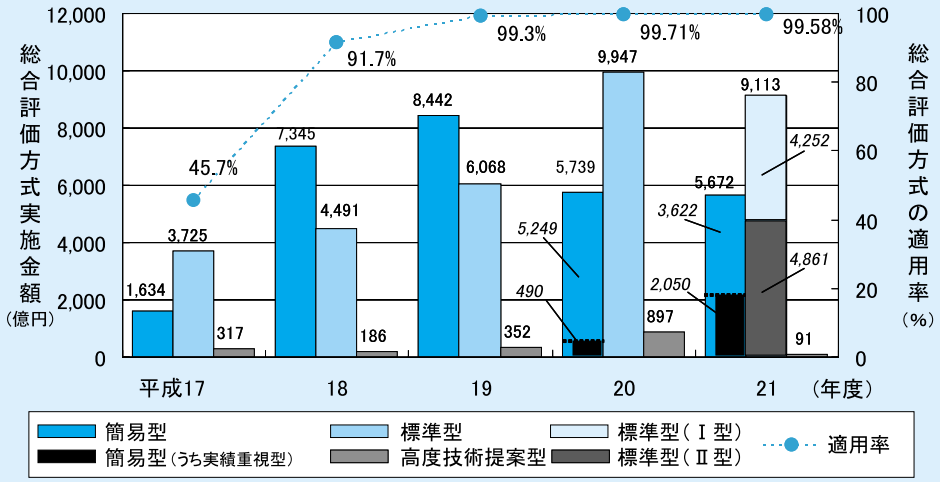
年度別およびタイプ別の総合評価方式の実施件数と実施金額について，それぞれ**図－1**，**2**に示します。

平成21年度における総合評価方式の適用率は件



（注）1.　８地方整備局における実施件数。
　　2.　適用率は随意契約を除く全発注工事件数に対する総合評価方式実施件数の割合。

図－1　総合評価方式の年度別・タイプ別の実施状況（件数）



（注） 1. ８地方整備局における当初実施金額。
2. 適用率は随意契約を除く全発注工事金額に対する総合評価方式実施金額の割合。

図―２　総合評価方式の年度別・タイプ別の実施状況（金額）

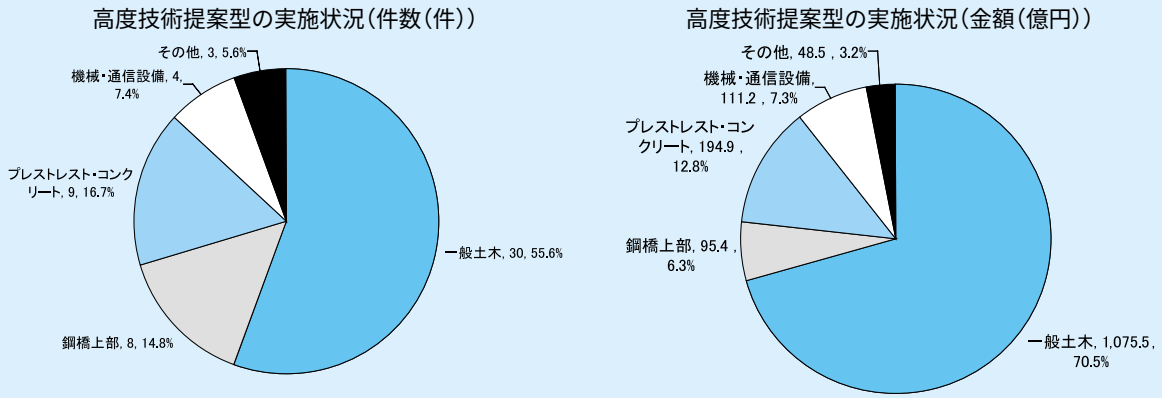
数ベースで99.2%となり，ほぼ100%の適用状況となっています。タイプ別では，最も多いのは簡易型の6,737件（全体に占める割合60.5%）で，最も少ないのは高度技術提案型の６件（同0.05%）です。また，早期発注対策として実施した実績重視型（簡易型の内数，以下同じ）は2,796件で，全総合評価件数の25.1%を占めました。

また，金額ベースでの平成21年度における総合評価方式の適用率は99.6%となり，ほぼ100%の適用状況となっています。タイプ別では，最も多いのは標準型の9,113億円（全体に占める割合61.3%）で，最も少ないのは高度技術提案型の91億円（同0.6%）です。また，早期発注対策として実施した実績重視型は2,050億円で，全総合評価件数の13.8%を占めました。

3　高度技術提案型の実施状況

総合評価方式の各タイプのうち高度技術提案型について，工種別の実施件数と実施金額を**図―３**に示します。

高度技術提案型は，平成18～21年度において，一般土木，鋼橋上部，プレストレストコンクリートの各工種において実施する場合が多く，件数べ



（注） 1. ８地方整備局を対象。
2. 全工種を対象。

図―３　高度技術提案型の総合評価方式における実施状況（件数・金額）の内訳

ースで47件（全体に占める割合87.0%），金額ベースで1,366億円（同89.5%）です。

平成21年度において，高度技術提案型の実施件数が減少した主な理由は，早期発注による手続き期間の短縮，大規模事業の見直しによる発注方針の変更等が考えられます。

4 技術評価の実施状況

(1) 技術評価点の得点状況

総合評価方式の各タイプにおける技術評価点（標準点＋加算点＋施工体制点）の得点状況について**図－4**に示します。

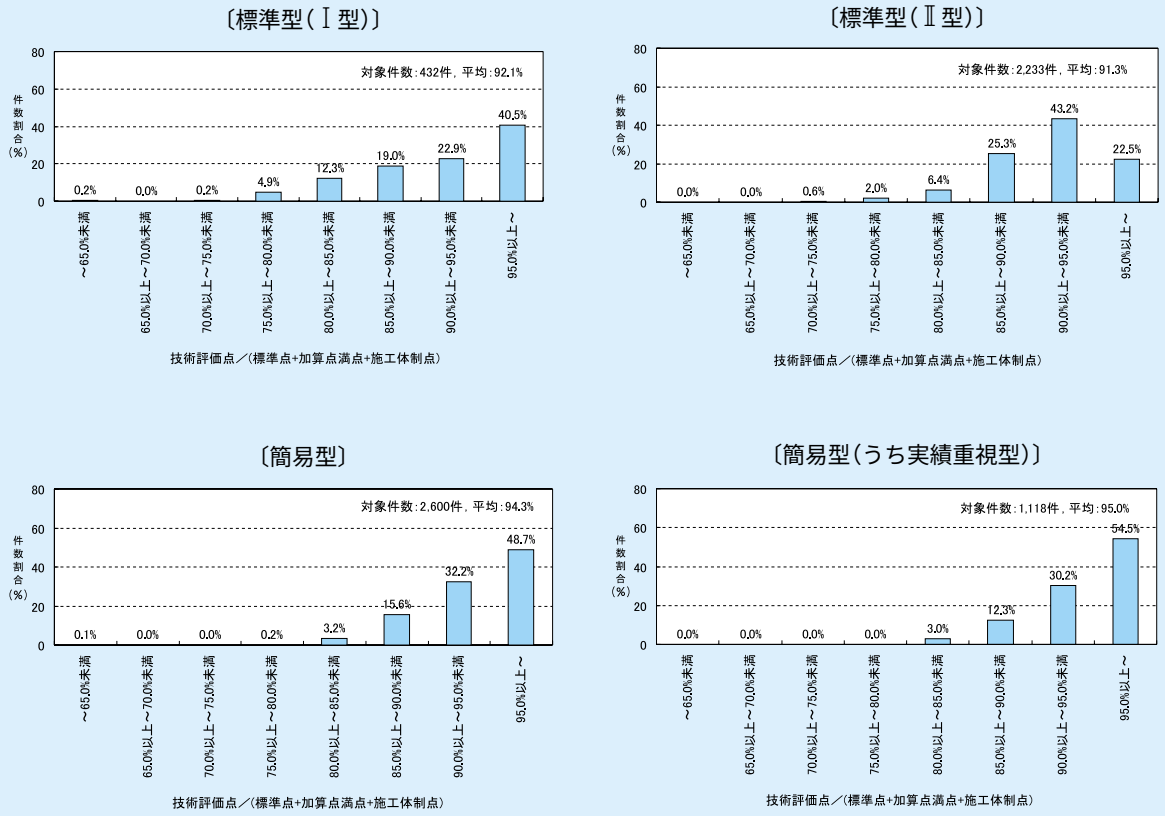
満点（標準点＋加算点満点＋施工体制点）に占める技術評価点の割合は，標準型（Ⅰ），標準型（Ⅱ），簡易型，実績重視型のいずれも90%以上となる件数が過半数を超えており，それぞれ63.4%，65.7%，80.9%，84.7%を占めています。

(2) 評価項目の配点率

地方整備局別の加算点における各評価項目の配点率について，標準型を**図－5**，簡易型を**図－6**にそれぞれ示します。

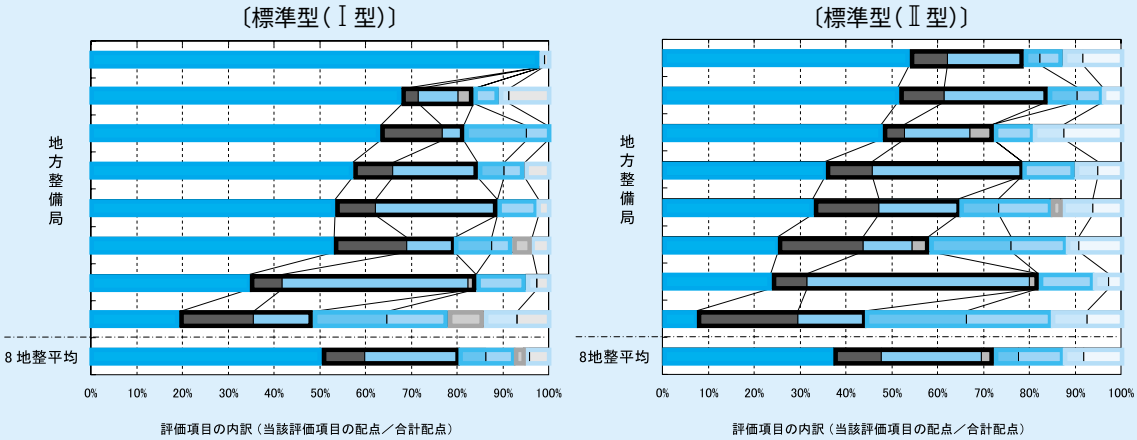
標準型（Ⅰ型）および標準型（Ⅱ型）とも，「技術提案」の配点率に相違が見られるとともに，「技術提案以外」の配点率についても，例えば「企業の施工能力」を高く設定している地方整備局もあれば，「企業の施工能力」と「配置予定技術者の能力」の配点率を同程度に設定している地方整備局もあるなど，相違が見られました。

簡易型では，「簡易な施工計画」を設定していない地方整備局もあるが，約半数が10～30%程度の配点率となっているとともに，「簡易な施工計画以外」の配点率について，例えば「企業の施工能力」を高く設定している地方整備局もあれば，「企業の施工能力」と「配置予定技術者の能力」の配点率を同程度に設定している地方整備局もあるなど，簡易型，実績重視型ともに，配点率に相

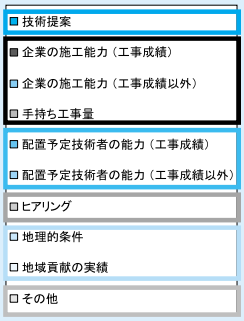


（注） 主要４工種（一般土木，アスファルト舗装，PC，鋼橋上部工）に該当する工事を対象。

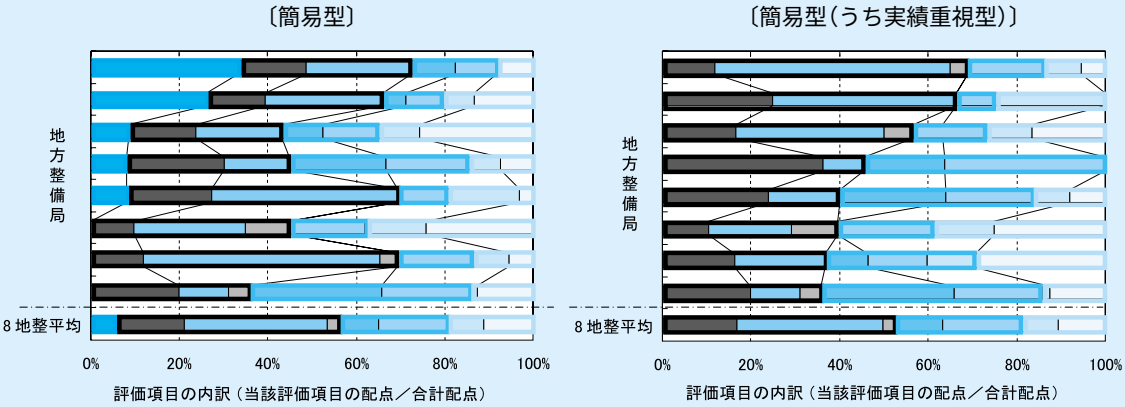
図－4 各タイプにおける技術評価点の分布



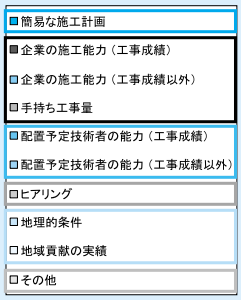
（注） 1. 平成21年度の契約工事のうち，各評価項目の詳細配点が確認でき，かつ主要４工種（一般土木，アスファルト舗装，PC，鋼橋上部工）に該当する工事を対象。
2. 配点率は，合計に対する当該評価項目の配点の割合。



図－５　地方整備局別　各評価項目の配点率（標準型）（平成21年度）



（注） 1. 平成21年度の契約工事のうち，各評価項目の詳細配点が確認でき，かつ主要４工種（一般土木，アスファルト舗装，PC，鋼橋上部工）に該当する工事を対象。
2. 配点率は，合計に対する当該評価項目の配点の割合。



図－６　地方整備局別　各評価項目の配点率（簡易型）（平成21年度）

違が見られました。

(3) 落札者と非落札者の得点率とその差

標準型における各評価項目の落札者と非落札者の得点率とその差について**図－7**に示します。

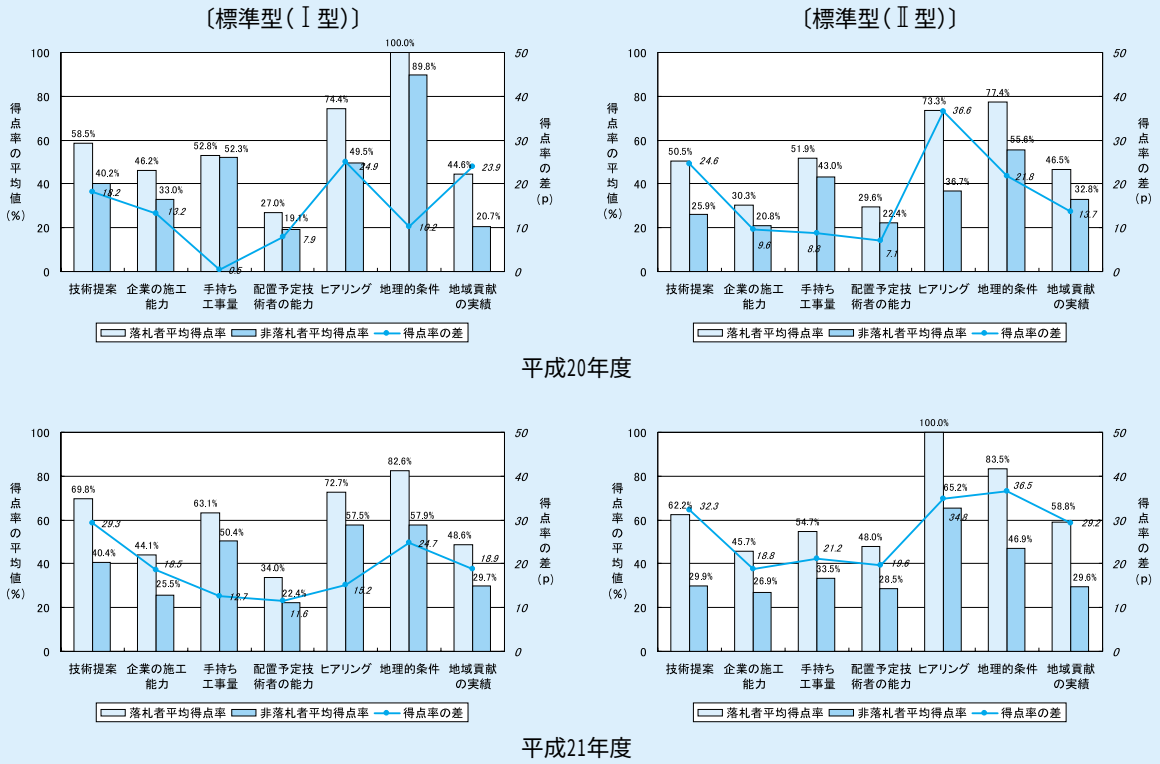
標準型（Ⅰ型）の評価項目のうち，平成21年度において，落札者の得点率の平均値が高いのは「地理的条件」「ヒアリング」，および「技術提案」でした。また，落札者と非落札者で得点率に差がついているのは，「技術提案」「地理的条件」，および「地域貢献度の実績」でした。

標準型（Ⅱ型）の評価項目のうち，平成21年度において，落札者の得点率の平均値が高いのは「ヒアリング」「地理的条件」，および「技術提案」でした。また，落札者と非落札者で得点率に差がついているのは，「地理的条件」「ヒアリング」，および「技術提案」でした。

標準型における技術提案に係る評価項目別の落札者と非落札者の得点率とその差について**図－8**に示します。

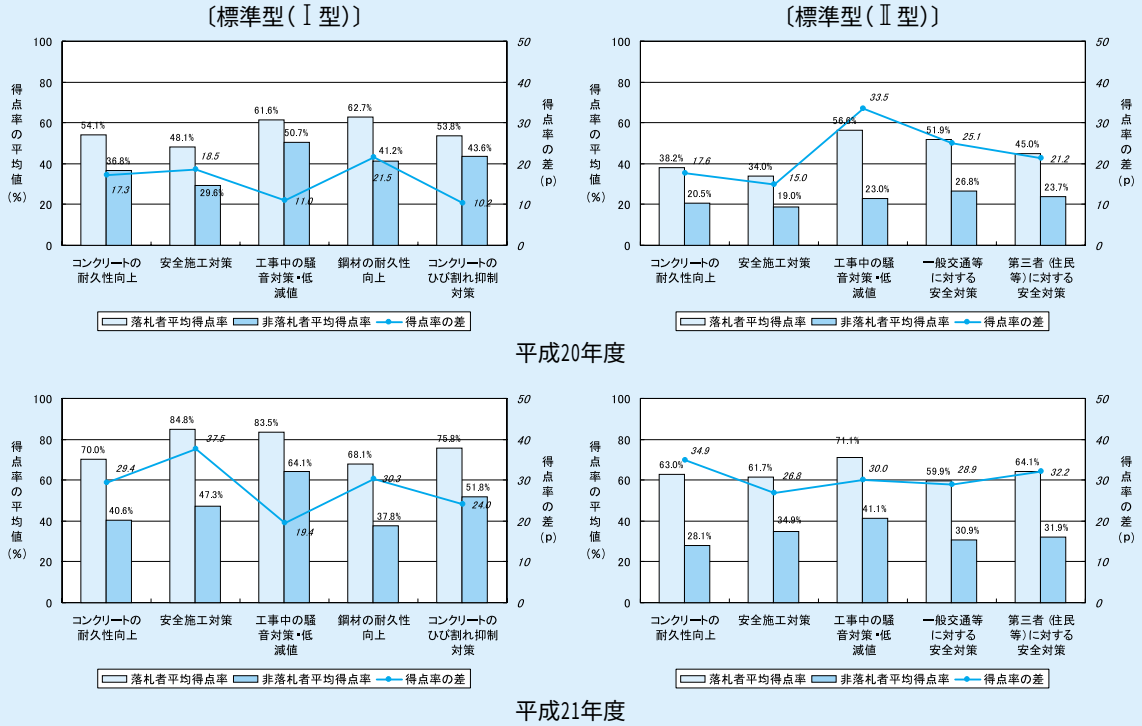
標準型（Ⅰ型）の技術提案に係る評価項目のうち，平成21年度において，落札者の得点率の平均値が高いのは「安全施工対策」「工事中の騒音対策・低減値」，および「コンクリートのひび割れ抑制対策」でした。また，落札者と非落札者で得点率に差がついているのは，「安全施工対策」「鋼材の耐久性向上」でした。

標準型（Ⅱ型）の技術提案に係る評価項目のうち，平成21年度において，落札者の得点率の平均値が高いのは「工事中の騒音対策・低減値」「第三者（住民等）に対する安全対策」，および「コンクリートの耐久性向上」でした。また，落札者と非落札者で得点率に差がついているのは，「コンクリートの耐久性向上」「第三者（住民等）に対する安全対策」，および「工事中の騒音対策・低減値」でした。



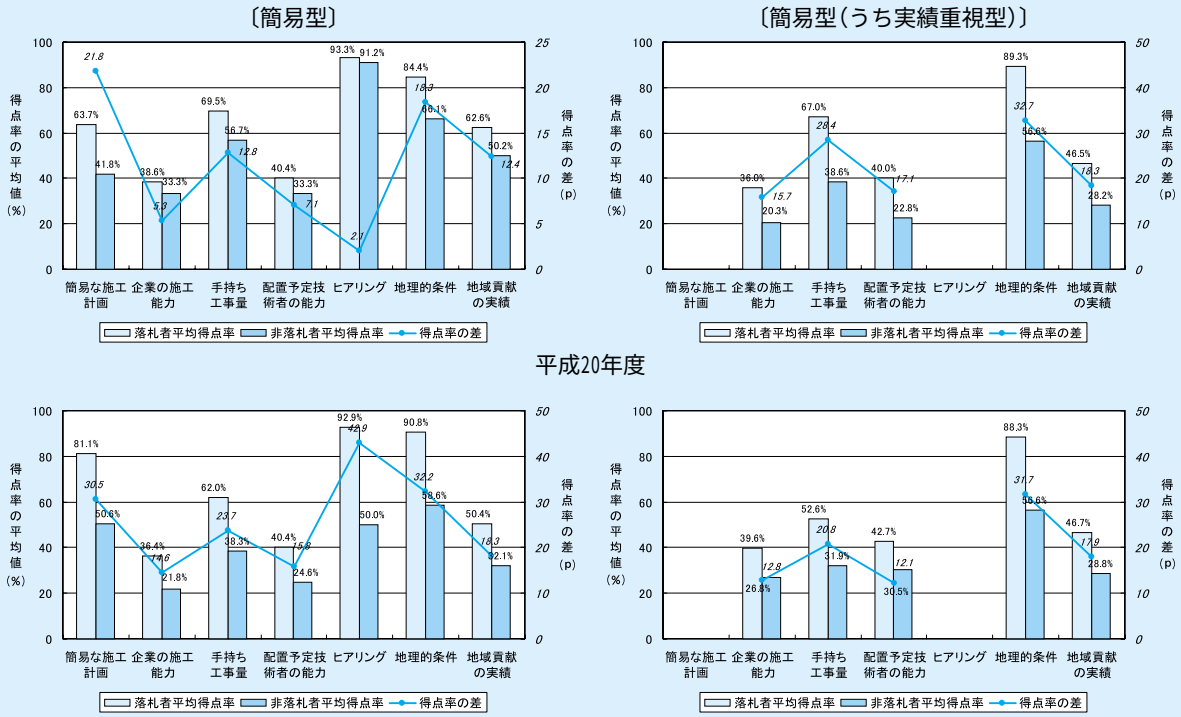
（注） 1. 得点率：各評価項目の配点に対する得点の割合。
2. 得点率の差：落札者と非落札者の平均得点率の差。
3. 平成20，21年度の契約工事のうち，主要４工種（一般土木，アスファルト舗装，PC，鋼橋上部工）に該当する工事を対象。

図－7　各評価項目の落札者と非落札者の得点率と得点率の差（平成20，21年度）



（注） 1. 得点率：各評価項目の配点に対する得点の割合。
2. 得点率の差：落札者と非落札者の平均得点率の差。
3. 平成20，21年度の契約工事のうち，主要４工種（一般土木，アスファルト舗装，PC，鋼橋上部工）に該当する工事を対象。

図－８　技術提案に係る評価項目別の落札者と非落札者の得点率と得点率の差（平成20，21年度）



（注） 1. 得点率：各評価項目の配点に対する得点の割合。
2. 得点率の差：落札者と非落札者の平均得点率の差。
3. 平成20，21年度の契約工事のうち，主要４工種（一般土木，アスファルト舗装，PC，鋼橋上部工）に該当する工事を対象。

図－９　各評価項目の落札者と非落札者の得点率と得点率の差（平成20，21年度）

簡易型における各評価項目の落札者と非落札者の得点率とその差について**図－9**に示します。

簡易型の評価項目のうち，平成21年度において，得点率の平均値が高いのは「ヒアリング」「地理的条件」，および「簡易な施工計画」でした。また，落札者と非落札者で得点率に差がついているのは，「ヒアリング」「地理的条件」でした（ただし，「ヒアリング」を採用している工事件数は７件）。実績重視型についても，平成21年度における全体の傾向は「簡易な施工計画」「ヒアリング」（採用なし）を除いて簡易型とほぼ同様でした。

5 落札者の状況

(1) タイプ別の加算点の設定状況

総合評価方式の各タイプにおける加算点（満点）の設定状況について**図－10**に示します。

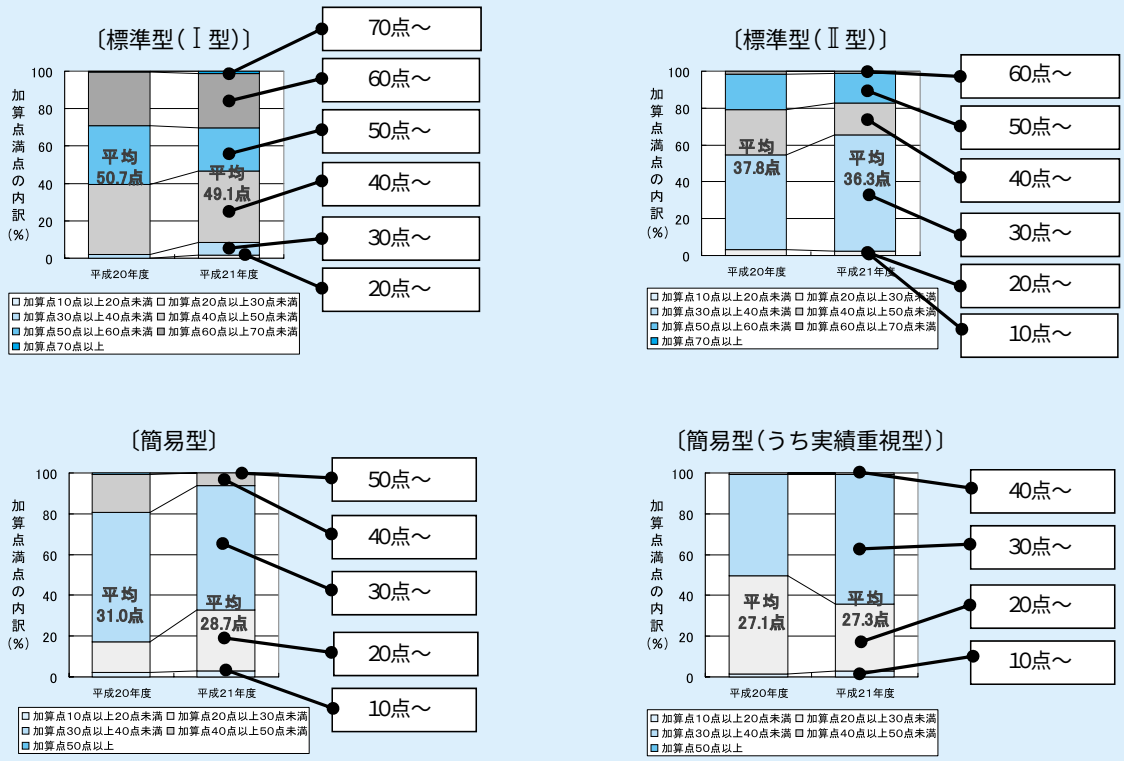
加算点の平均は，標準型（Ⅰ）49.1点，標準型（Ⅱ）36.3点，簡易型28.7点，実績重視型27.3点となっており，技術評価を重視する度合いが大きいほど高い配点となっています。

加算点数別では，標準型（Ⅰ）は加算点を50点以上とした件数が53.4%を占める一方，その他の型は，すべて30～40点とした件数が最も多く，標準型（Ⅱ）63.0%，簡易型60.9%，実績重視型63.7%を占めています。

(2) 入札価格と技術評価点得点との関係

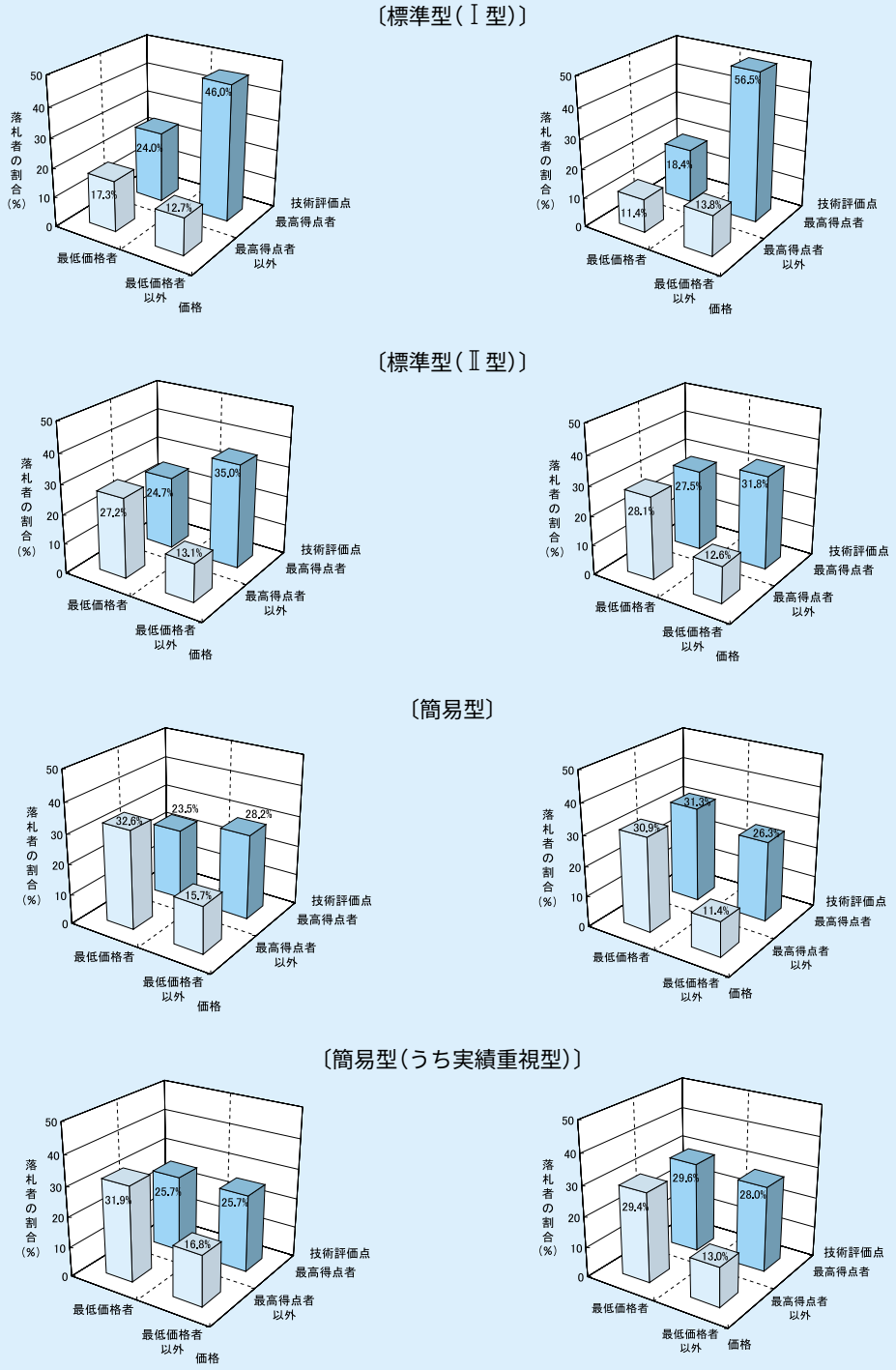
「入札価格（最低価格，最低価格以外）」と「技術評価点の得点（最高得点，最高得点以外）」との関係で落札者の割合を年度ごとに整理した結果を**図－11**に示します。

最高得点者（最低価格者以外）が落札した割合は，標準型（Ⅰ）56.5%，標準型（Ⅱ）31.8%，簡易型26.3%（実績重視型は28.0%）となっており，技術評価を重視する度合いが大きいほど高い割合となっています。



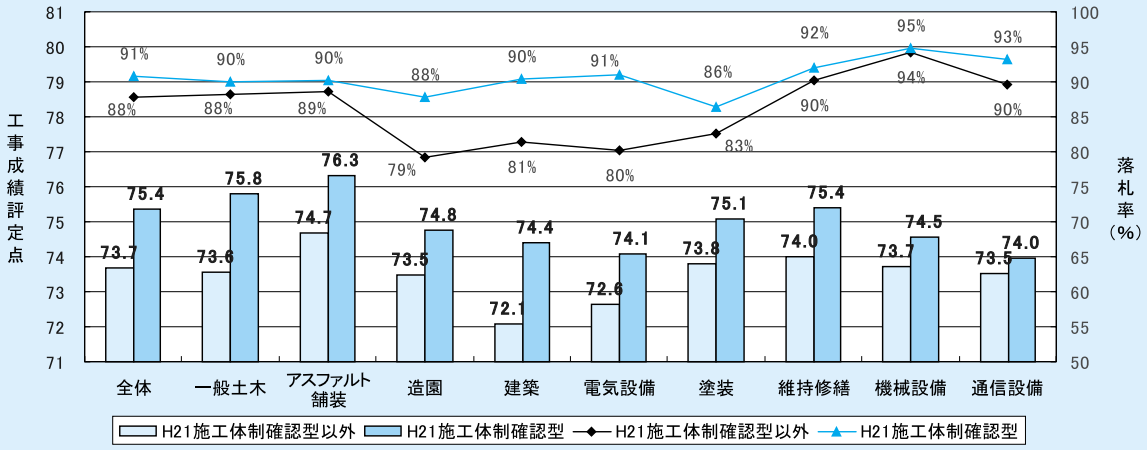
（注） 1. 主要４工種（一般土木，アスファルト舗装，PC，鋼橋上部工）に該当する工事を対象。
2. 予定価格内１者の工事を除く。

図－10 各タイプにおける加算点満点の内訳



（注） 1. 主要４工種（一般土木，アスファルト舗装，PC，鋼橋上部工）に該当する工事を対象。
2. 予定価格内１者の工事を除く。

図―11 各タイプにおける落札者の状況



（注）　工種別は，平成21年度の実施件数が100件以上の工種を対象。

図―12　各工種における工事成績評定点と落札率の状況

6　施工体制確認型の実施状況

国土交通省直轄工事の各工種における工事成績評定点と落札率について，施工体制確認型を導入した場合と導入しない場合で整理した結果を**図―12**に示します。

施工体制確認型を導入した場合の平均工事成績評定点は75.4点で，導入しない場合と比較して1.7点高くなっています。

工種別に，施工体制確認型を導入した場合と導入しない場合における工事成績評定点を比較すると，いずれの工種においても，導入した場合の方が高い値を示しており，特に，建築（2.3点差），一般土木（2.2点差），アスファルト舗装（1.6点差）の差が大きくなっています。

また，落札率も，いずれの工種において，導入した場合の方が高い値を示しており，特に，電気設備（11ポイント），造園（9ポイント），建築（9ポイント）の差が大きくなっています。

7　おわりに

本稿で述べました平成21年度の年次報告も含め，過年度作成の「国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況（年次報告）」，および「総合評価方式の活用・改善等による品質確保に関する懇談会」におけるこれまでの検討内容・検討成果は国土交通省国土技術政策総合研究所のホームページ（URL：http://www.nilim.go.jp/lab/peg/index.htm）に掲載されていますのでご参照下さい。